

第24回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2014年3月17日（月）15:00～17:30

〔場 所〕生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕※敬称略

委員：石川 清（会長）、小川 久江（副会長）、天利 公一、岩本 陽児、押村 宙枝、
黒田 純子、佐合 昭浩、竹葉 かほる、辰巳 厚子、富川 尚子、中村 香、
西原 要四郎、柳沼 恵一
以上 13名

事務局：田中生涯学習部長、熊田センター長、松田事業係長、村田担当係長、丸山主事（記録）

〔欠席者〕川島 演、菅谷 万里子

〔傍聴人〕0人

〔資 料〕・第24回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2014年度第生涯学習センター事業計画について
- ・2014年度市民企画講座募集要項
- ・2013・2014年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート 資料1～18
- ・第23回生涯学習センター運営協議会 事業評価シート意見（企画・評価）
- ・2014・2015年度生涯学習情報誌市民編集委員の決定について
- ・2013年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート 報告1～12
- ・センター長報告
- ・生涯学習NAVI好き！学び！ 春号

田中生涯学習部長より挨拶

<協議事項>

1. 2014年度事業計画について

（意見・質問）

委員：図書館関係の計画はこの計画から外れているのか。

事務局：外れている。これは生涯学習センターの事業の計画になる。

会長：抜けているのは図書館と他にはあるか。

事務局：文化財関係も抜けている。

委員：1. 学習機会の提供の中の重点的に取り組む事業の中で、ポータルサイトの構築準備とある。実際に稼働するのはいつになるのか。

事務局：ポータルサイトについては是非取り組みたい事業である。予算要求はしているが、来年度については予算がつかなかった。2014年度は準備期間とし、1年をかけて詳細設計をし、2015年度から運用開始を考えている。市役所のルールとかけ離れたことも考えている。例えば、双方向のやりとり、動画配信等もしたい。協議しないといけない内容もあるので、それを1年かけて進めていきたい。

会長：例え予算がついても、2015年度から動くことはできないのではないか。

事務局：サイトはパッケージになっており、半年くらいで運用ができる。1年かけてさまざまな準備をし、早い時期に運用開始ができると思っている。

副会長：ポータルサイトは、ほぼ決定的であり、希望は持てるのか。

事務局：はっきりできるとは言えないが、できるだけ目玉事業として提案していきたい。

2. 生涯学習センターの今後について

（意見・質問）

委員：生涯学習推進計画は社会教育の推進計画というところがある。これを、5年後には学校教育

を含めた生涯学習の体系を作れるようにしていただきたい。そういう方向に向けての根回しを進めていただきたいと思う。例えば、昼の学校がさまざまな難しい問題を抱えていて、不登校になってしまう子どももいる。そういった子どもたちの手当てを社会教育でどう面倒を見られるのか、そういうことも重要な鍵になると個人的に思っている。特別支援学校をどう考えていくかを含めて、実効性のある生涯学習の体系を作っていただければと思う。

委員：社会教育・生涯学習への参加者を増やし、より良くしていくためにも職員の庁内での連携がとても重要になる。例えば、今は文部科学省・教育委員会系の方を見ていると思うが、厚労省系の福祉部門等とも連携していくことが大事だと思う。他の地域でも、教育委員会から市長部局に移管されたことで、問題もあるが、連携がし易くなったという良い部分もある。より良くしていくために、他の部署との連携をしながら生涯学習を考えていただければと思う。

事務局：役所内では横の連携が出来ていないところがある。来年度は生涯学習センターが事務局となって、庁内連絡会を開催する。ここでさまざまな情報を共有して、その中で連携事業ができる仕組みを作りたい。さまざまところで生涯学習に関わる事業を行ってはいるが、なかなか繋がりが持てていない。連絡会を通して、これからやっていきたいと思う。そして、やがては庁内だけではなく、例えば社会福祉協議会等のさまざまな母体も含めていきたいと考えている。

委員：健康、福祉、町づくり、文化、スポーツ、防災、環境問題等、さまざまな部署で行っており、ここでボランティア活動をしている人や学びに来る人たちも同じようなテーマに関心を持っている。いろいろな部署で行っている活動を学びとして捉えたときに、生涯学習センターとして何ができるのかということ洗い出していくと、生涯学習センターで学んだことが町づくりや市民の活動に生かされていくと思うので、是非そこをやっていただきたいと思う。

委員：ボランティアバンク制度を表に出してもらえそうな活動があるといいと思う。覇気が感じられない。

会長：ボランティアバンクの現状はどうか。

事務局：ボランティアバンクの登録は70件を超えていて、実際の利用は10件程度であり、あまり多くない状況である。生涯学習センターとしてもこれをどう高めていくかということで、スキルアップ講座や1日体験講座を実施しながら、情報提供と利用の促進を図っているのが現状である。

委員：情報を収集することは重要なことだと思う。社会福祉協議会の中にはボランティアセンターがある。そこでの情報交換はされているのか。

事務局：立ち上げの際に、向こうの特徴を知った上でこちらの特徴をどう出していくのかということでの情報交換はしている。

副会長：多少の役割分担はしているのか。

事務局：社会福祉協議会は福祉関係のボランティアになる。全く重ならずすみ分けできるとは思っていないが、何らかの特徴はだしていく必要があると思っている。

委員：生涯学習センターの活動状況は議員も含めてPRしていく必要がある。予算の問題もあり、庁内連絡会でもいろいろな方の理解がないといけないと思う。さまざまな行事に招待したり、交流会を持ったりすることが必要になるのではないかと。以前はあったと思う。例えば、青年学級の開級式や成果発表会には必ず議員にも来ていただいているが、もっと普段の行事の中で交流があってもいいと思う。来年度、青年学級は40年を迎える。さまざまな課題があるので、そこを突破するためにも関係者の理解を深めていくことが重要になってくると思う。

委員：今日の午前中に社会福祉協議会の会議があって、その担当者に「佐合さんのゆるやか体操が出ていたね」と言われた。ボランティアバンクのチラシ等をマメにチェックしているようだ。社会福祉協議会は福祉が中心であり、老人ホームでの介護や老人福祉施設の車の送り迎えなど、老人ホームや高齢者の支援組織でのボランティア募集が9割くらいある。ボランティア募集をしていることもあって、生涯学習センターのボランティアバンクにも関心を持っているようだ。ボランティアバンクをすぐに拡大することはできないと思うが、ベースはできているので、ベースを基にして、あわてず騒がず地道にPRしていかざるを得ないと思っている。これからの期待していいと思う。

- 事務局：ボランティアセンターは少し形態が違う。ボランティアセンターはボランティアを募集している人たちが登録をして、ボランティアにきてもらう。ここは講師として登録した人たちが市民が利用する形である。人材を活用していただくためのバンクであり、意味合いが少し違う。
- 委員：学校支援センターから派遣されているボランティアの方たちといろいろな話をしてみると、ボランティアバンクを知らない人たちがたくさんいる。ボランティアセンターには情報が流れていると聞いているが、末端までは届いていないと感じる。校長先生が変わるとシステムが変わるので、計画してきたことを継続してできないケースがある。そういうときに末端から情報をとるシステムを考えることも必要ではないか。登録している団体の方たちをいかに生かしていくかを考えていけば、そういった考えになると思う。
- 事務局：学校支援ボランティアとの連携を模索してはどうかという提案か
- 委員：そうである。ボランティアバンクの登録者の内容を見ると、子ども達が喜ぶものがいっぱいある。
- 委員：生涯学習センターのボランティアバンクの案内を見ると、このシステムとしてはボランティアバンクに登録してもらって、需要があればセンターがマッチングするような書き方になっている。スキルアップ講座を行ったときに、ある男性が「戦争の話しを小学校でしたいが、センターに言っても小学校を紹介してくれない」と言っていた。それに対して「それはセンターに紹介してもらうのではなく、自分が仲間を作って、企画書を書いて、学校の支援ボランティアへ持って行ってはどうか」と答えた。そしたら「自分ではできない」ということだった。自分で企画書を書いて、自分たちでグループを作って、学校に提案する、そういう方法を教える講座が必要であると思う。他所の地域では、“街の先生”見本市みたいなものをしていて、学校支援をしたい人たちがボランティアバンク1日体験講座のようにブースを出して、アピールしている。お客さんがくること、マッチングしてくれることを待つだけでは活動の機会が減っていくと思うので、自分たちで機会を見つけていけるような情報提供の方法を考えていただければと思う。
- 委員：学校支援センター、社会福祉協議会、生涯学習センターの3つのデータを相互乗り入れしてほしい。それぞれ個人情報等の問題があると思うので、項目だけでいいので、して欲しいこととしたいことを両方並べて、どこにいてもどちらも見られるといい。ボランティア登録を考えている人は、自分は福祉寄りなのでボランティアセンターに行こう、学校はシステムが面倒くさそうだから学校支援センターには行きたくないが、生涯学習センターなら登録する等、それぞれに思いがあって登録していると思う。はたから見ていると、この人は生涯学習センターで使えそう、学校で活躍できそうということがあるので、自分とは違う目でコーディネートするためにも、情報は一覧で見られるようにしてほしい。それぞれの団体で80団体ずつ登録があるよりも、全体で300団体の登録があるほうが価値はあり、活用される情報も多いと思う。それぞれのカラーや役割を保ちつつも、一か所で見られる仕組みができると思う。
- 委員：以前から話しが出ているとおり、生涯学習センターだけに留まらず、地域へ出て講座等を実施してほしい。今後さまざまな情報を集約して、みなさんに利用してもらおうとしている中で、離れた場所で実施されているものは参加しづらく、なかなか関係を結ぶのも難しい。地域で実施されれば、生涯学習センターの存在も身近になると思う。一歩踏み出して、市民と協働して少しずつ場を広げていただければと思う。
- 委員：生涯学習センターでは、以前は生涯学習コーディネーター養成講座が実施されていて、そこで育った人たちがコーディネーターとして活動している。そういう人たちを活用できないか。養成講座は2年ほどで終了してしまった。もし活動できれば、いろいろな情報を集めて、ボランティアバンクを活発にするための動き等も協力できると思う。コーディネーターの会には20名くらい人たちがいる。コーディネーターとして活動できると思う。
- 委員：その人たちにスキルアップ講座を受けてもらったほうがいい。理論的なことも大切だが、やはり実践を踏まえている人たちの話を聞くほうが活動しやすい。結果的にボランティアバンクに貢献していくような道が開けると思う。

- 事務局：現在、コーディネーター養成講座は開催していない。養成講座からできたグループがあることは承知している。生涯学習センターにはさまざまな利用団体が活動していて、そういう利用団体と生涯学習センターが連携して講座を企画することは非常に少ない。自分たちだけの活動になっていて、広がりが無い。我々もスキルを持っている団体に対して声をかけていく姿勢を持つべきであるが、逆に団体からも相談いただけると思う。そういうやり取りが大事だと思う。
- 会長：職員の方はそれぞれの役割があって、その中で人員の問題もあり、なかなか動くことは難しい。一人でもいいので、コーディネーターを専門にする人を立てるという発想ができないか。そういう人間が一人でもいると、いろいろなことが繋がるような気がする。
- 事務局：市役所の中は組織で仕事をしている。縦割りではなく横のつながりを広げていくことを常に考えている。行政だけでは追いつかない課題が山積しているのだから、市民と一緒に解決していくことができればいい。力のある職員がリードしていくことはなかなか難しい。組織としての動きの中で、個の力をどう生かせるかは今後追及していきたいと思う。
- 副会長：いろいろな仕事をしながら個の力といっても難しい。専門を置けばできることもある。
- 事務局：一人の人間にはそれぞれ役割がある。専門でやることは難しいと思う。力のある職員がうまく生かせる仕組みをつくりたい。そのために社会教育主事を育成している。社会教育主事資格を取得することによって、講座を理論的に組み立てることができたり、学習相談に対応できたりしている。そういう職員を養成していきたい。
- 委員：学校支援コーディネーターは学校の教員でも職員でもない。肩書きとして使っているが、何それと言われたら、何それである。逆を言えば、コーディネーターは職員である必要はないので、コーディネーターを市民にお願いして、生涯学習センターコーディネーターとして、ボランティアで採用するだけでいいのではないかと。コーディネーターは、企画が見えてきた段階で行うコーディネートと誰とでも無駄話をして、そこから考えるコーディネートがある。私の場合は小学生が相手なので、小学生にどんな興味を持っているか、例えば学校教育に批判的であっても、学校教育に何か引っかかりがあるから批判するのだらうと思って話を聞いている。いろいろな人と話しができ、「おっ、コレ」って思うような暇な人ではないとコーディネートはできないと思う。企画を作る以前の部分がとても大事で、それを職員が担うことは難しいと思う。それをやってくれる人をお願いできるシステムが生涯学習センターの中にできればいいと思う。
- 委員：核になって人と人をつなぐ場所が生涯学習センターであると思う。こんなことを教えたい、こんなことを学びたいと思っている人が生涯学習センターへふらっと来て、お話ししていったことが蓄積されて、それを見れば何かに繋がる。そんな場所ができないか。核になる職員がいる、研修しながらコーディネーターが少しずつ増えていけばいいと思う。やりたい人をお願いしてしまうことはできないのか。ここに来たらコーディネーターがいる、ということが認知されれば、人の出入りも頻繁になると思う。
- 事務局：明確ではないところにはたして人が集まるのか、コーディネーターは具体的に何をやれば最終的にコーディネーターになれるのかが疑問に思う。例えば、今、ひきこもりについて講座を行っている。これは保健所から「ひきこもりの調査をしてデータがあるが、これを広げるためにはどうしたらいいのか」という相談があって、講座を行うことになった。当事者の関係者がたくさん参加されている状況で、結びつきもうまくできてきている。次の展開に繋がってくると、それはコーディネートしたという感じがする。具体的なものが見えればいいが、ただコーディネーター養成講座を修了した人たちでコーディネーターの会を立ち上げたので、活動できる場所と時間をと言われても、何を提供すればいいのかわからない。
- 委員：何も提供しなくていいと思う。ある日ふらっと生涯学習センターへ来て、話を聞いてくれる、それだけでいい。学校支援コーディネーターもいろいろな関わり方がある、常駐できる部屋をもらっている人がいて、そうではない人もいて、先生たちが子どもを帰してほっと一息ついている時間帯を狙って職員室に御用聞きをして、あとは家で活動している人、「近所にこんな人がいるので、3年生向けにやりたいと言われていてどうですか」といきなり副校長のところに行く人、と千差万別である。そういうコーディネーターが小学校にいと

ということがだんだん地域に知れてくると、集まってくる情報はおのずと増えるので、コーディネーターがいることはクッションになって効果がある。確かに、コーディネーターは何をしたらコーディネーターなのか、コーディネーターの資格はない。コーディネーターは肩書きではなくて行為だと思う。何となくおせっかいな人だと思われるればいい。生涯学習もそういうところで繋がるものはいくらかもあると思う。ひきこもりの講座は生涯学習センターへ相談したから、うまくコーディネートされ、それはいいと思う。コーディネーターとして肩書きがあっても、何もコーディネートしていなければあまり役に立たない。

それから。先ほど生涯学習が学校教育を含むようにという話があった。不登校は学校教育があるから不登校という概念が持てるわけであって、そうではなくて、学齢期の子どもの学習は学校だけとするものではないということを今の世の中では忘れられている。社会が子どもは学校か塾かスクールに入れておくかという状態になっているので、そうではない学齢期の子ども全体の在り方までを入れて、生涯学習を考えていただけるいいと思う。

委員：最終的にどうなればいいのかははっきり言えないが、たまたま美容院に行ったときに、若い美容師さんから、「料理のことを勉強しようと生涯学習センターへ行ったが、誰に話をしているか分からなかったのもそのまま帰ってしまった」という話を聞いた。生涯学習センターで話を聞いてもらえるところがあって、そこに情報があればもらえる、最初はそのレベルでいいと思う。それが積み重なっていくと、望ましい形が見えてくると思う。常ににこにこして、声をかけやすい人がいるところがあるといいと思う。

副会長：目的があって6階へあがってくるので、入ることができるが、何もなくて来た場合には誰に声をかけたらいいのかわからない。いつもにこにこして欲しいとまでは言わないが、せめてエレベーターに近い席の人には来館者に対して視線を向けたり、「何か御用ですか」と声をかけたりして欲しい。事務所の雰囲気一般市民だったら帰ろうかなと思ってしまう。

事務局：どこの公民館でも課題として言われている。ここの公民館をつくる際、声がかかりやすいようにカウンターを低くした。それでも雰囲気の問題があるので、それは職員の姿勢を変えていかないといけない。

委員：相談・受付という看板を見えるように置いたらどうか。

委員：相談窓口が奥にあって見えにくい。前のほうへ配置を変えたらどうか。

3. 市民企画講座について

(意見・質問)

委員：昨年との変更点について、3月に振り返り会を設けたことはいいと思う。他のグループがどうだったかにも関心がある。同じような内容の講座が入っていたりすると、そういう団体との交流があってもいいと思う。これは非常にいいアイデアだと思う。

委員：説明会はあるのか。

事務局：4月15日に相談会を行う。任意参加である。

委員：何年も同じ団体の講座が採用されないように、2年同じような講座が採用されたときには翌年は基準から外すということだったと思う。そういうところは考慮されるのか。

事務局：考慮の対象にはなる。

委員：何回も経験のある団体の企画は良いかもしれないが、他の団体にも経験を積んでいただく為にも基準を明確にさせていただき、大勢の団体が参加できるようにしてほしい。

会長：振り返り会は初めての試みか。

事務局：初めてである。

委員：振り返り会はとてもいいことだと思うが、振り返りというと反省会になってしまうので、実践交流会としてはどうだろうか。

4. 2014年度生涯学習センター事業の企画について

(1) 第9回まちだフレッシュコンサート(資料1)について説明

(意見・質問)

特になし。

(2) ことぶき大学(資料2~6)について説明。

(意見・質問)

委員：前年度と同じコースは申込みができないということだったと思う。募集プログラムの後期募集では初めての方優先という記載があるが、前期については優先事項の記載が何もない。明示がないまま、そういった選考をして大丈夫なのか。周知のないまま行われると、何か言ってくる方もいると思う。

事務局：初めての方を優先する選考をしている。広報のほうに確認をする。

委員：間に合うのであれば訂正文を入れた方がいいと思う。

(3) 障がいがあってもこの町でともに生きる(資料7)について説明。

(意見・質問)

委員：社会協議会とタイアップしないのか。

事務局：していない。

(4) 博物館・センター共催事業「やきもののやわらかいはなし」(資料8)について説明。

(意見・質問)

特になし。

5. 事業評価について

(1) 2013年度市民大学 通年・後期(資料9~17)について説明。

(意見・質問)

委員：資料10「エコと暮らしの未来講座」について、もともと定員が課題になっている。応募者が少ない理由を考えてみる必要がある。自然入門から派生しているので、講座内容が似通っている部分がある。入門講座は誰でも幅広く、環境講座はある程度実践的な意味合いがある。汚染と水の問題等に焦点をあててやってきたところで、ある時期は特徴があったと思うが、最近あまり差別感が出ていない。講座の内容が重複してきている。そういう意味で、環境については少し変えていく必要がある。環境は自分の周りだけきれいにしてもあまり意味がない。例えばPM2.5は外からくる問題であって、汚染の問題にしても地球規模の問題である。この講座は町田の環境問題に焦点を当てているが、地球規模の視点で講座を組んだり、大気汚染の問題をマクロでみたり、エネルギーの問題を考えてみたり、環境の問題をみんなで考える講座に少しずつ変えていく必要があると思う。

事務局：環境講座は多摩丘陵の自然入門講座から派生した。ハイキングするだけではなく、実際に活動しなければいけないということで、環境講座が生まれた。前期は活動しているところに入って、活動しながら学ぶ。昨年度の後期は世界規模のゴミ問題を取り上げ、今回は世界の水の動きに着目している。そういった視点を入れながら町田の身近なところでエコフェスタに参加したり、リサイクルを考えたりといったことを行ってきた。課題として、前期から後期に人が繋がらないことがある。前期の土日の講座に熱心に参加されても、後期の水曜日夜に開催される座学に参加されないといった人の繋がりができないという問題がある。今年の工夫は、曜日の問題として、後期も土日開催を入れようと思っている。講座内容の工夫も必要だと思っている。

会長：これまでの市民大学の流れの中では、だんだん参加者が減ってきている。しかし、もともとの市民大学のポリシーが「自分を育て、地域を育む」と地域との繋がりを考えていたので、応募者が減っても続けていくという方針できていた。プログラム委員もそれに特化して考えていた。

委員：受講生が13人では講義する方も苦痛ではないか。

事務局：ゼミのような感じで、話し合い中心の学習になっている。環境の問題は参加する人にとっては大事な問題であるので、方向性を確かめられるという意味ではとても深まった講座であると思う。

委員：学校のカリキュラムのような感じがする。実際にやってみて、みんなで話し合っただけで新たなものが出せると思う。いくつかトライアルしてもかまわないと思う。

事務局：市民大学であるので、カリキュラム化も必要だと思っている。

委員：集まりが少ないから3つのコースに分けたと思う。多摩丘陵の自然入門が具体化していて内容もいいだけに、比較したらあっちにしてみようかとなる。プログラムの組み方を考えないと3つに分けても中途半端に終わってしまう感じがする。この講座や人間事情、エコと暮らしの未来講座は重要でありながら、受講する側も考え過ぎてしまって、申し込まないのではないかな。あまり期待できない。地球環境ボランティア入門は大事であるが、もう少しプログラミングを考えないと迷ってしまう。前期で11回と回数も多過ぎると思う。

事務局：今ご覧いただいているのは前期の講座である。後期は座学になる。それに参加者が少なかったということである。(松田係長)

委員：後期の時間帯はどうなっているか。

事務局：ウィークデイの6時半から8時半である。

委員：若い人をターゲットにしているのか。

事務局：若い人も含めている。数人の参加はあるが、続かないようである。

委員：定員から割り出す受講率ではなく、13人の人がどれくらい受講していたのか計算すると、1回に9人くらいしか来ていない。毎回4人ずつ欠席していたのか、それとも欠席がちな人が固定で何人かいたのか。もし4人ずつ欠席者がいたのであれば、仕事があって来られなかったのか、最初から自分が狙っている講座だけ参加するつもりだったのか。大勢来てくれる講座ならば大して問題はないと思うが、少なかったことが反省にあるならば、来てくれた人にどういう理由で受講したのか、どういう理由で欠席したのか、どうなれば11回全てに出られるのか、といった聞き取り調査してはどうか。13人ならば一人一人に話を聞いてもたかが知れている。きっとそれぞれに理由があると思うので、それが分かるとおもしろい。

事務局：担当に確認する。

委員：さまざまな講師の方をお願いしている割には、11回続けての一通性が読み切れない。

委員：最低の人数は何人だったのか。

会長：市民大学が独立していたときには、11回から15回行っていた。生涯学習センターとして行うのであれば、その考え方を崩してもいいと思う。常識的に若い人に入ってもらいたいと言いながら、興味があっても11回参加することは考えられない。

事務局：生涯学習センターで講座を組むときに、長い家庭教育支援学級であっても8回程度である。

会長：「リタイアしてから受けてください」、と言っているようなものである。

事務局：その辺を含めて見直していきたいと思う。

(2) 学生生活動報告会「私にもできる！東日本大震災ボランティア」(資料18)について説明。

(意見・質問)

会長：学生の発表は何団体あったのか。

事務局：6校10団体あった。

委員：学生以外の一般の方はどのくらいいたのか。全員学生か。

事務局：一般の方もいた。詳しい人数はわからないので、確認する。

<報告事項>

1. 生涯学習推進計画について

事務局：3月7日の定例教育委員会において、生涯学習推進計画の策定について及び市民意見の概要と教育委員会の考え方を報告した。3月20日に文教常任委員会において行政報告をする。3月21日に広報及びホームページにおいて、計画の内容を公表する予定である。

2. 生涯学習NAVI市民委員について

事務局：生涯学習情報誌の市民編集委員の公募をかけた。8名から応募があり、その中から4名に願うことが決まった。メンバー、役割等は資料のとおり。

3. 事業評価の最終報告

事務局：ことぶき大学7件、その他6件の13件ある。いずれも講座の実施目的については達成できたと思う。ただ、それぞれの講座で課題もあるので、来年度は工夫をしながら継続して実施をしたいと思っている。

(意見・質問)

会長：ことぶき大学は今までと同じ方針で実施していくのか。

事務局：ことぶき大学はホールで大勢の方に受講していただけるように実施している。少人数の実技講座は競争率が非常に高くなり、受講できない方が出てきてしまう。テーマによっては受講率が非常に高くなる。これからも興味を持っていただけるようなテーマ設定をして実施していきたい。

会長：応募者がとても多い。募集は最初から年齢制限をかけるのか。

事務局：対象は60歳以上である。来年度はどれも定員がオーバーするような内容である。競争率は非常に高くなると思う。

事務局：今回から第二希望まで記載していただくことにした。定員割れをする講座もいくつかあり、今までは電話申込みにより先着順で決めていた。公平ではないということで、第一希望が落ちた方で、第二希望の講座が定員割れをした場合には、その講座を優先的に受けられるようにした。

副会長：4月から切手代は52円になる。

事務局：それについては調整中である。

委員：高齢化が進んで人の数も増えているので、応募はどんどん増えていくと思う。内容的にみると高齢者のニーズを把握している感じがする。ことぶき大学は非常にいい。どれをとっても興味のある内容だと思う。定年を迎えた元気な高齢者はたくさんいるので、応募は多いと思う。

事務局：ことぶき歌おう会など、ことぶき大学からできたサークルはいくつかあって、今も続いているところがあるが、ここまで大人数になるとサークル化が難しい。なかなか後に続かない点は課題である。

委員：ことぶき大学では団体の紹介冊子は出していないのか。

事務局：出していない。

委員：毎回新しいグループを作るというのもいいが、同窓会みたいにコースごとに修了団体が一つでもあると、そういう選択もできる。次の活動に繋げることができるのではないか。

事務局：小平市の公民館では高齢者の事業の冊子があって、かなり活発に繋がっている。そこは学校ボランティアに繋がるような活動をしているところもあり、修了した人が作った団体が第三十何期生というのがあるようだ。座間市も同じように4年生くらいまでである。仲間を作りながら、いろいろなことを学んで地域のことを学ぶということをしている。他市の状況も参考にしながら検討していきたいと思う。

委員：若い高齢者の方たちはあまりサークル活動を好まないと聞いている。ことぶき大学の参加者はどうか。

事務局：実態として、ここの学習の形態だからサークル化しにくいのか、世代の問題として講座の参加が伸び悩んでいるのかが分からない。感覚としてはそういう話しも出ている。

委員：大学は単位を修得するということがあるが、ことぶき大学ではどうか。例えば、ことぶき大学に参加して、いくつもハンコをもらっているような人たちに呼びかけをして、ゴールド会員だとか、何とか工夫をして集まるような仕掛けをしたらどうか。常連だけの特別な時間を用意するなど、お得だと思う売り込み方をすれば、集まった人同士で仲良くできる一つのきっかけになるのではないか。

事務局：生涯学習センターがどこまで何をするかというビジョンを持ちながら、考えていきたいと思う。

- 委員：ことぶき大学にしろ市民大学にしろ、最終的にどういう市民の成長を作っていくのかということになっていくと思う。大事な要因になると思う。
- 会長：ホールを使うようになったのはいつからか。
- 事務局：初めから行っていた。公民館が前の小さい建物だったときは、市民ホールを使って、400人くらいの規模で実施していたこともある。
- 委員：センター長総合評価について、いつも評価がBになっている。Aが現状のまま継続、Bが改善しながら継続なので、ポリシーとしてBが正しいと思う。Cは拡大になっていて、拡大するからには自信があるから拡大すると思うが、Cだと悪いような気がしてしまう。ここは複雑な気持ちがある。Dであったとしても、これはやりがいがあった、やって良かったという講座はあると思う。そういうものがあつたら、今後は教えていただけるといいと思う。
- 事務局：今年度、市民大学の環境講座では別の部署のイベント「エコフェスタ」に参加し、フリーマーケットを出した。物を集めるとなるといろいろな作業がある。そういう中で会話が生まれ、まとまりが出たという実感できた。また、人間事情講座ではハンセン病資料館に行った。苦労して見に行って、資料をみたり、資料館を運営する人の話を聞いたりした中で、聞いた側が共感していく様子を見ると、この講座を実施して良かったという思いがある。参加されている方がどう繋がっていくのか、どう変わっていくのかを見て、次の力にしていきたいと思う。
- 委員：紙に書かれる評価は、客観性と言いながら、実際には量的評価である。質に関わる評価が一番重要であると思う。図書館にしても公民館にしても、質が見えにくいところがある。担当職員の主観的満足度、達成感を記載する欄を設けたらどうか。
- 報告1について、三国志は英雄物語の三国志か。三国志という言葉が三国志演義を指すことが一般的になっている。

4. センター長報告

(1) 教育委員会について

3月7日に行われ、生涯学習推進計画、生涯学習センター事業計画の概要、市民大学通年・前期募集について報告した。3月31日臨時会が開催される予定であり、第2期生涯学習センター運営協議会委員の委嘱について上程をする。

(2) 市議会について

現在、3月議会が開催されている。25日から28日に一般質問が行われる。3月20日に文教社会常任委員会が開催される予定であり、生涯学習推進計画の行政報告をする。また、来年度予算について質問を受ける。

(3) センタービル管理について

年度末の工事をしている。特に、防犯カメラ、無線機、地下2階の非常用の蓄電池、監視システムのパソコンの更新、6・7階自動ドアを工事していきたい。来年度は屋上の防水工事を行う予定である。4月から7月の4か月間をかけて行う。音と振動が出る関係で、5月の数日間についてホールと和室の使用を中止する。また、屋上に機材を搬入・搬出する関係で、4月14日と6月18日に原町田大通りを通行止めにして作業を行う。109について、4月から営業時間が朝10時半から夜9時までに変更する。エスカレーターについて、地下1階から7階まで直列にする。

(4) その他

現在、嘱託員の選考を行っている。今後の予定について、3月20日、21日に「ボランティアバンク1日体験講座」、25日に時事問題講演会「ひきこもる若者の心を理解する」、25日にくるくるロケット、きしゃぼっぽスペシャル、27日に「春休みみんな集まれ！ロボの音楽座と音さがし」を開催する。0歳児から保護者の方を対象にして、イベントダイアルで受け付ける。29日に映画上映会「ぼくは海をみたくなりました」を開催する。感動するような内容になっている。

5. 東京都公民館連絡協議会の活動について

【委員部会】

委員：2月23日に第10回委員部会、第3回研修会開催された。講師は首都大学東京の教授である荒井文昭氏。テーマは「教育委員会制度の改編と公民館」。難しい話だった。教育長が首長から任命されることになるという、大幅な制度変更があると言われているが、その意味合いが非常に難しい。教育委員会は執行機関なのか、補助機関なのかという議論がまずあって、地方自治の分権の趣旨から、市長に権力が集中しないように、行政執行機関を市長以外に設けることが建前になっている。例えば、教育委員会、人事委員会、選挙管理委員会、監査委員会等は市長が直接判断するのではなく、その委員会が決定していく。そこが非常に重要である。今回の法改正は正式な形が出ていないので、中間的な話になるが、そういった攻防が予想される。教育長が首長の補助機関なのか、教育委員会の補助機関なのかで大幅に違う。教育の自由が保障されないと、首長が変わる度にいろいろな問題が変わってしまう。それでは具合が悪い。やはり教育長は教育委員会のもとに置かなければいけない、といったことが話された。詳細は報告書を見ていただければと思う。こういった教育関連施設で持たれている制度、例えばPTA、公民館運営審議会、生涯学習センター運営協議会等での議論が非常に重要である。首長が勝手に物事を決めないためのブレーキ役となって、それが継承されていくことが重要であることが強調されていた。第11回委員部会は3月13日に開催され、次年度に向けての申し送り事項について協議した。来年度の委員部会は4月30日に昭島市で開催される予定である。

【役員会】

事務局：来年度の都公連の総会を4月16日午後2時から開催される。

5. その他

特になし。

運協委員、職員より挨拶